

1 日目 (11 月 25 日) えりさんのレクチャーノート
「水」の学習① - 「水」を知ろう!

<キーワード>

開発途上国の水の状況

子どもが水を汲み、学校へ行けない

水と衛生(えいせい)、医療(いりょう)

水と異常気象

水と女性、差別を受けるひとびと、貧しいひとびと

※えりさんのスライドは著作権などの関係で配布できない部分があります。

<レクチャーで話されたこと>

世界の水について話す。

世界の水と衛生(えいせい)について、数値を見ていこう。

どうさんも、ワンページャーで世界の水不足を話してくれた。

世界では 7 億 7000 万人が清潔な水を使えない。中国の人口が約 14 億人だから、その 1/2、中国の半分の人が清潔な水を使えない。

17 億人が適切なトイレを使えない。トイレも流す水が必要。日本の人口の 10 倍以上が水洗トイレを使えない。

世界の 1/3 の家と 43% の医療施設(いりょうしせつ)に石けん、水が使える手洗いの場所がない。

これから 2 つの国について話す。

アフリカ・インド洋の島マダガスカルと南アジアのバングラディッシュ。

マダガスカルのソロちゃん和ゼエちゃんについて。

ソロちゃん和ゼエちゃんは朝 5 時に起きて、水を汲みに行く。朝早い方が、水がきれいだから。

水を汲むと、水がどんどん汚れていく。小さな虫もいる。

水汲みの後は、朝ごはん和薪(まき)ひろいをする。それから、夜ごはんの準備をする。

両親を手伝うため、小学校へ行くのをやめた。

学校ではライティングの勉強が大好きだったと、2 人は言っている。

次は、バングラディッシュのノヨン君(10 歳)。

ノヨン君は「きれいな水が使えるようになったら、いまのような苦しみはなくなると思う」と話す。

ノヨン君もお母さんといっしょに、ごはんを作ったり、洗濯のための水をペットボトルに入れて運ぶ。

「きれいな水を使えたら、遠くまで水汲みに行かなくてもよいので、勉強や料理、遊んだりする時間ができる。時間を節約できると思う」と、ノヨン君は話す。

バングラディッシュの水、衛生(えいせい)の状況を説明する。

325 万人が清潔な水(せいけつなみず)を使えない。

7000 万人、人口の約 45% が適切なトイレを利用できない。

毎年 1000 人以上の子ども(5 歳未満)が、汚れた水やトイレが原因の下痢(げり)で命を落とす。

バングラディッシュの地域では、地下水に高い濃度のヒ素(ひそ)がふくまれる。

ヒ素は無味無臭(味も臭いもしない)なので、気づかずに長い間、口に入れて、嘔吐(おうと)や下痢(げり)になる。

あるいは、皮膚に色がつくという病気(皮膚の色素沈着)になることもある。

参考) ヒ素(ひそ)について(日本の農林水産省のサイト) >>

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/kas/basic.html>

バングラデシュは、世界に7番目に気候変動の影響を受けやすい国でもある。
 サイクロン、洪水(こうずい)、干ばつ(かんぱつ)などがひとびとの暮らしを脅かす。
 干ばつが続けば、さらに遠くまで水を汲みに行かねばならない。
 海水が地下に入って、海に近い場所の地下水が塩水(えんすい)になっている。

最後の紹介は、医療現場(いりょうげんば)、病院の水や衛生環境(えいせいかんきょう)を話す。
 開発途上国(かいはつとじょうこく)のおよそ半分の病院では、清潔な水を利用できない。
 不衛生(汚い)環境で子どもを産んで、開発途上国では年間100万人を超えるお母さんと赤ちゃんが死ぬ。
 医療に関わるのは70%が女性。水がなく、トイレや手洗いができない職場では生理中も安心して働けない。

次にクイズをしたい。グーチョキパーの手を挙げて。
 水の問題を解決(かいけつ)できないとどうなる？

水の問題を解決できないとどうなる？

		子どもががっこうにいけなくなる
		びょうきがなおらない、ひろがる
		お母さんが好きにつかえる時間がへる

正解は全部。

マダガスカルの子もたちのように、学校に行けなくなるのは、水を汲みに行く時間がかかるから。その時間をつくるために学校に行かないという選択をしてしまう。

病院で使う器具を洗うのにも水が必要。汚い水で洗うと病気がさらに広がる原因になる。

お母さん、女性が水を汲みに行くことが多く、お母さんが好きに使える時間がへる。

「水不足」と聞くと、飲み水がないと思うが、実は学校、病気など、いろいろなことに関わると理解してほしい。

最後に、水が使えない理由について話す。

水がつかえない理由

ちいき・ばしょ・ひとによっていろいろある


 政府がだいにしていない

障害、民族、カーストなどによる差別

まずしい人が利用できる値段ではない

どこにあるのか、うごいているのかどうかデータがない

直したり、お金を払うしくみがない

水がいつまでもあるわけではない



なぜ水が使えないのか？という理由は、地域や場所や人によってさまざま。

たとえば、国や政府が水を大事にしていけないということもある。政府が水を大事にしていけないと、水に関わる事業にお金を出さない。

たとえお金を出したとしても、水の設備の場所や設備が動いているかというデータがなければ、どこを直せばいいか、どこに行けばいいのかわからない。

障害(しょうがい)、民族、カーストなどによる差別(さべつ)。差別を受けているひとびとの状況にも目を向けねばならない。

貧しいひとが使える料金にしなければ、貧しいひとは水を使えない。

設備が壊れていた時に修理(しゅうり)するお金をひとびとが払える仕組みがなければ、すべてのひとに水を届けるのは難しい。

水がいつまでもあるわけではない。水がなくならないかどうかを見ている(監視、管理)する必要がある。

水が使えないとか、水が不足していると聞くと、水を取ってあげればいいのか、井戸を造ればいいのかと考え勝ちだが、このようないろいろな問題に関係する。

いろいろなひとが、いろいろなひとたちと、いろいろなことを考えて問題を解決しなければ、本当の解決にならない。

わたしの話しは終り。はせさんも言ったように、わたしの話しから何を感じたか、どのような課題があり、どのような解決方法があるかを、あすからのグループワークでも、みんなが共有してほしい。

かんがえてみよう

	いまの話から何を考えたか、
	どんな課題があると思うか、
	その課題はどうすれば解決につながるか、
	グループワークのときに共有してみよう！

こまった時、こんなことやってみたい！と考えた時は、グループのメンバーと話してみよう！

講師やグループリーダーにも聞いてみよう！

のんきさん・・・アニメの制作

スーさん・・・マンガ的な表現

さとーさん・・・映像(ライブアクションなど)の制作

senyaさん、ニンさん、たかさん、メイさん、シトウさん・・・グループの話し合いに入って、みんなを助けてくれます

えり(松尾枝梨乃)